

名古屋医療センターにおける医薬品SPD導入による 薬剤師業務のタスク・シフティングの効果

林 誠[†]第76回国立病院総合医学会
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 3 (156-161) 2024

要旨

タスク・シフティングとは、医師が担う業務を病院勤務の薬剤師・看護師などのコメディカルスタッフへ業務移管・共同化し、医師への業務集中を軽減するという働きから始まり、「医師の働き方改革」を推進するために急速に普及している。医師業務の薬剤師へのタスク・シフティングは、薬剤師が患者の入院から退院まで薬物治療の全過程をフォローアップできるようになる。一方で薬剤師が担う業務量が増えるため、薬剤師もまた自身の働き方を工夫する必要がある。

SPD (Supply Processing and Distribution) とは、米国のメディケア・メディケイドの導入により提唱された概念であり、本邦では医薬品SPDとして調剤の補助や注射薬の取り揃えなど病院薬剤部業務の一部を行う業務者として浸透している。医薬品SPDが医薬品管理を担うことで、薬剤師は対人業務に多くの時間を費やすことができるようになる。その結果として病棟業務実施加算の算定開始、廃棄医薬品の削減につながり、薬剤師のモチベーション向上にも寄与した。

薬剤師の業務負担を軽減するには医師の働き方改革と同様に、よりよい環境で仕事ができるような工夫が必要である。医薬品SPD導入による薬剤師業務のタスク・シフティングは、薬剤師が医薬品管理業務などの対物業務から、患者ケアを主とした対人業務に費やす時間を増加させ、病院の収益に貢献できるものとする。

キーワード タスク・シフティング, 医薬品SPD, 薬剤師業務

はじめに

タスク・シフティングとは、医師が担う業務を病院勤務の薬剤師・看護師などのコメディカルスタッフへ業務移管・共同化し、医師への業務集中を軽減するという働きから始まり、厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会（2019年3月）」が、2024年4月には「医師の時間外労働上限」を適用するな

ど、医師の働き方に関する方針を打ち出した。これによりこの数年間は「タスク・シフティング」の流れが医療現場において急速に普及していくと予想される。「医師の働き方改革」を推進するうえで、薬剤師を含めたメディカルスタッフへのタスク・シフティングは欠かせないものであり、患者に対しても、薬剤師が直接関わる機会が増えることで、入院から退院まで薬物治療の全過程をフォローアップできる

国立病院機構名古屋医療センター 薬剤部（現所属 国立病院機構石川病院 薬剤科）[†] 薬剤師
著者連絡先：林 誠 国立病院機構石川病院 薬剤科 〒922-0405 石川県加賀市手塚町サ150
e-mail : hayashi.makoto.yu@mail.hosp.go.jp
(2023年3月1日受付 2023年10月13日受理)

Effectiveness of Task Shifting of Pharmacist Work by Introducing Pharmaceutical SPD at NHO Nagoya Medical Center
Makoto Hayashi NHO Ishikawa Hospital
(Received Mar. 1, 2023, Accepted Oct. 13, 2023)

Key Words : task shifting, pharmaceutical SPD, pharmacist work